



建学の精神に基づく 人材育成を目指して

二松学舎は、本年創立145周年を迎えました。本学は1877(明治10)年10月に、漢学者であり法律家であった三島中洲先生により、東京・九段の地に漢学塾二松学舎として創立されたことに端を発し、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成ス」を建学の精神として、道徳心を基に倫理観を醸成することを基本理念に置き教育を行ってまいりました。現在は設置校として二松学舎大学(2学部6学科、3研究科)、同附属高等学校、同附属柏中学校・高等学校を運営し、在籍総数5,124名(5月1日現在)の学舎へと発展しました。

さて、本学の長期ビジョン「N'2030 Plan」は今年で5年目に入りました。本ビジョンでは建学の精神に基づいて育成する人材像を、時代の先行き、AIに代表されるニューテクノロジーやSDGs、気候変動、カーボンニュートラル対応等による経済・社会構造の大変革や価値観の多様性を展望し、「日本に根差した道徳心を基に、良質な知識と英語・

中国語等語学力を身に付け、我が国の歴史と文化を理解し、かかる知識を背景として、より良き社会を実現する目標を持って、グローバルに活動する逞しい人材」としています。この人材像実現のため、「21世紀型教育体制」の構築という目標の下、大学、両附属高等学校、附属中学校におけるカリキュラム改革を進め、教育の質をさらに高めていくこととしております。

「N'2030 Plan」の 取り組みと展望

大学部門ではこの4月に文学部歴史文化学科と大学院国際日本学研究所が新たにスタートしました。また数理データサイエンスを含む教養科目を両学部の初年次教育に織り込んだ新カリキュラムがスタートし、学修者の立場に立った教育の展開等、教学マネジメント全般を見直しながら「教育の質保証」を再確認し、「良い教育をする大学」としてのブランド化を図っていく方針です。並行して、教育・研究環境にデジタル技術を取り入れることで精緻な成績管理の仕組

みや教育手法の開発を進め、大学教学におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進しています。具体的には、教育成果の可視化のため信頼性あるディプロマサプリメントの作成等を通して「学修者本位の教育」、「学びの質の向上」、「出口：就職先等の保証」の実現を目指し、学内に「教学DX委員会」を立ち上げ、具体案の検討を開始したところです。

両附属高等学校および附属中学校でも、探究型科目や体験型科目を多く取り入れながら、タブレット端末を交えたアクティブラーニング中心の授業を展開し、難関大学合格への一層の実績引き上げを図る等、これら設置校のさらなるブランド力アップを目指しております。

最後に法人部門ですが、私立学校法の再改正等学校法人制度改革の動きを注視しつつ、法人運営の更なる透明性・公明性を強化するためガバナンス・コードの充実を図るとともに、情報公開の拡充等ガバナンス体制の改革を進めております。また、人事制度・組織についても整合性ある形を追求。財務面については、安定的な管理・運営に配慮することを第一に、強

固な奨学金制度の基盤となる恒常的な寄付金募集体制の強化や慎重かつ管理を徹底した資金運用を行ってまいります。この他、第三者評価による法人財務格付けの実施等、各種改善を図るとともに、「N'2030 Plan」の最終目的である本学全設置校のブランド力の向上、すなわち「良い教育をする学校としての評価獲得および各設置校の志願者・入学者の増加とその安定」に結び付けていきたいと考えております。

現在創立145周年記念事業や広報展開とあわせて周年記念募金(二松学舎教育研究振興資金)の募集も行っております。本学のこれからの取り組みにご賛同いただき支援賜りますようお願い申し上げます。

今後も創立以来145年の私どもの建学の精神に基づいた教育理念を継承しながら、予想される内外環境の激変などさまざまな事象に対応できる知恵を古典から生み出し、将来の発展につなぐ人材の育成が、私どもに与えられた使命であると確信しております。この揺るぎない方針の下、次の150周年に向かって進んでまいりたいと思っております。

創立145周年を迎えた二松学舎と 「N'2030 Plan」の課題

学校法人二松学舎 理事長 水戸 英則



創立145周年を迎えて

2022年10月10日、創立145周年を迎えた二松学舎。
学長、両附属校長からのメッセージとあわせ、
いつも本学にご支援いただいております
同窓会・父母会の会長の皆さまから祝辞をいただきました。



周年事業という緊張感

二松学舎大学 学長 江藤 茂博

■二松学舎の先人たち

創立145周年の周年事業の年となりました。学校にとって周年事業とは、ひとつの区切りであり、これまでの有り様を振り返り、ここまで支えてくれた教職員や学生はもとより、多くの関係者に感謝するとともに、この後をどうするかを、関係者皆で考えることでもあります。

多くの二松学舎の先人たちが、まさにさまざまな思いで、それぞれの周年事業に携わり、今日まで二松学舎が二松学舎であることを考え、そしてその維持発展に努力を重ねてこられたのでしょう。

改めて、この長い年月、いわば無私の精神で学校を支えた人たちに、私は心から敬意を払いたいと思います。

■「年史」

学生時代からのほとんど趣味の領域ではありますが、これまで幾つもの学校の「年史」というものを手にしてきました。部外者にとっては、あまり手にされることない本ですが、その編纂は個性があふれています。時の権力者への賛歌を書きまとめている「年史」もあれば、これまでの^{かんなん}艱難^{しんく}辛苦を切々と訴えた表現になっている「年史」もあります。確かに「年史」が出版できるくらいなので、経営はそれなりに安定しているでしょうし、また批判を書くものもそもそもありません。場所柄をわきまえるという話になります。それにしても、学校というものが、その出発を起点に絶えず周年事業として自己確認していく、この文化的な機能はなんでしょう。周年事業と出会う度に、学校

関係者としてはいささか気になってはいました。特に今年は、私が個人的に親しい二つの学校が100周年を迎えた年でもあったからです。

■周年事業の大切さ

こうした身辺を顧みても、確かに学校にとって、これまでとこれからとを、しっかりと認識し、それらを書き記していくことは重要です。そして自らの教育事業が社会に受け入れられ、人々がそれを必要とするならば、事業規模も膨らんでいくことでしょう。周年事業で浮かび上がる教育事業の軌跡は、今後を考えるためにも大きな意味を持つわけです。

しかし、気を付けなければならないこともあります。周年事業での評価というものは、その時点での賛辞を並べたものであり、その表現が

後々に影響を持つかもしれないことです。私の着任当時の学長であった故石川忠久先生の文章には、「二松学舎はこれからも、大きな規模の大学となることを目指さない。二つの学部が二本の松のように競い合い、支え合って、小さいながらもピリリと辛い、老舗の味を磨いていく」（「創立百二十五周年 記念論文集」2002.10）と結ばれます。その見事なレトリックは、良くも悪くもその後の二松学舎大学の方向性に影響したかもしれません。

■145周年という基点

この145周年は、プラン通りに展開していること、いまさら私が繰り返すまでもありません。二松学舎150周年まであと一息のところまで歩んできました。漢学塾からの伝統を重ねながら、さらに世界に向けての高等教育機関として二松学舎は力強く歩んで欲しいと思います。この145周年という基点をここにお祝いし、そして、次の150周年が、さらに二松学舎の新たな関係者によってしっかりと支えられていくことを、私は信じて疑いません。



次世代の人材育成を目指して

二松学舎大学附属高等学校 校長 鵜飼 敦之

二松学舎は、三島中洲先生が1877（明治10）年、九段の地に漢学塾を創立してから145周年を迎えました。当時は洋学偏重の時期にあって、中洲先生はそのことだけでは、真の日本の発展はないと憂えられ、東洋の文化を学び日本人の精神文化など本来の姿を知ることこそが重要と考え、漢学を教授することで人材育成を目指されました。

現在、国際化が叫ばれ、グローバル人材の育成が求められる中で真の国際人としてリーダーシップを発揮するためには、自国の歴史や文化を理解し、日本人の精神を身に付けることが重要と考えます。まさに、現代的な課題を認識され、二松学舎の礎を築かれた先生のご慧眼であったと思います。

その精神を引き継いでいる附属高等学校は、戦後七十有余年の歴史を数え、多くの有為な人材を世に送り出してきました。現在は、「心を育て、学力を伸ばす」と

の方針の下、学習・学校行事・部活動の三兎を追う生徒の入学を期待し、「論語」を通じた人格教育と確かな学力の育成を図り、「仁愛・正義・弘毅・誠実」の校訓を体得する生徒の育成を目指しています。また、今年度から新たな学習指導要領に対応した探究的な活動を行うなど、生徒が課題を設定し、その解決を図るために自ら考え、判断し、行動する力を身に付けられるよう、全教職員で指導を進めています。生徒たちは真摯に学習に向かい、体育大会や校外学習などの学校行事に積極的に参加し、野球部はもとよりダンス部も全国レベルで活躍するなどさまざまな部活動に自主的に取り組んでいます。

今後も建学の精神に基づく長期ビジョン「N'2030 Plan」を道標として、先行き不透明で不確実な時代を生き抜くために、遅しさとしなやかさを兼ね備えた人材育成を進めてまいります。



145周年の伝統の下で

二松学舎大学附属柏中学校・高等学校 校長 七五三 和男

二松学舎は本年10月10日、創立145周年を迎えました。1877（明治10）年、時代を代表する漢学者三島中洲先生が、現在の二松学舎大学九段1号館のある東京都千代田区三番町（当時は麴町区一番町）の自宅に、漢学塾二松学舎を開いたのがその始まりです。西洋文明の進んだ部分を自分たちのものにするためには、東洋の文化を学び、日本人の本来の姿を知ることこそが重要だと主張し、漢学を若者に教授することで、真に役立つ人材の育成を目指したのでした。

以来、建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」「己ヲ修メ人ヲ治メ一有用ナル人物ヲ養成ス」の下、時代の変化の中で社会のニーズに応えながら、明治・大正・昭和・平成・令和の今日に至るまで発展を遂げてまいりました。

附属柏（旧沼南）高等学校は、二松学舎創立90周年記念事業の一環として、1969（昭和44）年に千

葉県沼南町（現柏市）に開校しました。今年、創立53周年を迎えます。また、附属柏中学校は、二松学舎の建学の精神の下に、附属柏高等学校との一貫教育を行い、有用な人材の育成を図るため、2011（平成23）年に開校し、今年、創立11周年を迎えます。中高は、校訓「仁愛」「正義」「誠実」、教育目標「自立をはかり、主体性を身につける」「思いやりのある豊かな人間性を身につける」「社会への関心を高め、豊かな国際性を身につける」を基本に、本校教育の2本柱『人間力の向上』『学力の向上』に努めております。さらに、中高（コースや学年を問わず）ともに英訳入りのオリジナルテキストによる伝統の論語教育が、生徒の豊かな心と温かい思いやりを育む大きな特徴となっております。多様な角度から「論語」に触れその精神を学んでいます。

今後、150周年への発展に向け、決意を新たに取り組みます。

大学

母校のますますの発展を祈念

二松学舎松苓会 会長
廣田 克己



創立145周年をお祝い申し上げます。

我が母校は日本の近代国家への黎明期に開学して以来、これまでにさまざまな試練をこの東京の中心地で乗り越えてきました。今もIT革命や新型コロナウイルスなどのために時代の転換期にあります。変わらねばならない時代でもあります。しかし、変えてはならないものもあるはず。建学の精神に基づく人づくりです。母校のますますの発展を祈念します。

二松学舎松苓会は、微力ながら今後も母校の支援をまいります。

建学の精神を受け継ぐ二松学舎生の活躍に期待

父母会 会長
染井 直人



二松学舎創立145周年、誠にありがとうございます。記念すべきこの時を、父母会として関われることを大変よろこばしく思います。

三島中洲先生が九段の地に漢学塾を開学以来、一貫してこの地で伝統を守り続けていることは他に誇れることであり、コロナ禍をはじめさまざまなことで社会が転換期にある今こそ、建学の精神を受け継ぐ二松学舎生の活躍のときではないでしょうか。

二松学舎のさらなる発展と社会貢献を心からお祈りいたします。

附属高校

145年の伝統は卒業生皆の誇りです

松友会 会長
大林 一夫



日頃は学校法人二松学舎と附属高等学校の密なる連携をしていただき感謝しております。

月日が流れるのは早いもので、私が入学した時は創立110周年だったと記憶しております。その後卒業し、親となり2人の娘も二松学舎を無事卒業させていただきました。伝統ある二松学舎の一員（卒業生）として、この創立145周年は我々卒業生の誇りであります。さらなる二松学舎の発展のために、できる限りの支援を今後もさせていただきます。

二本の松のように寄り添い、強く逞しく

父母の会 会長
松田 宗剛



二松学舎創立145周年、誠にありがとうございます。この記念すべき瞬間をお祝いする場に立ち会えたこと、非常にうれしく存じます。これからも創立者・三島中洲先生のポリシーを継承しながら、「二本の松」のように、寄り添う心を持ち、強く逞しく生きることを学んだ学生・生徒の皆さまの活躍を期待しております。

このたびは、学校関係者、学生・生徒、保護者の皆さま本当におめでとうございます。二松学舎のますますのご発展をお祈りいたします。

附属柏中学校・高校

設立当初から変わらぬ理念の継承

松柏会 会長
齊藤 定市



二松学舎創立145周年、心よりお祝い申し上げます。

三島中洲先生が明治10年に漢学塾二松学舎を設立し、真の国際人を育成するために、論語などの漢学を通して人として社会に貢献できる人材、また己を修め人を治める教育理念を基本とし教指導かれてから、145年の歳月を迎えられたことは、まさに偉大なことであります。

今後のますますのご繁栄を心よりご祈念申し上げます。

建学の精神に基づく人材育成に期待

父母の会 会長
保坂 瑞恵



創立145周年誠にありがとうございます。

二松学舎大学附属柏中学校・高等学校父母の会を代表してお祝い申し上げます。また日頃より本校生徒が充実した学校生活を送れるよう多大なるご尽力をいただき心より御礼申し上げます。特にこの数年は新型コロナウイルスによる教育への影響は計り知れないものであり、苦勞なされたことと思います。

今後も二松学舎の建学の精神の下、より良い人材育成とさらなるご発展を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

附属高校野球部

夏の甲子園出場! 2年連続5度目



大会前日のリハーサルで入場行進を行う選手たち (写真: 日刊スポーツ)

二松学舎大学附属高等学校野球部は、2022年7月30日に行われた第104回全国高等学校野球選手権大会東東京大会決勝戦で、日本体育大学荏原高等学校に5対1で勝利し優勝。2年連続5回目の夏の甲子園出場を決めた。8月6日の開会式は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各出場校のキャプテンのみが入場行進を行った。

緊張の初戦は9日、南北海道代表の札幌大谷高等学校と対戦。附属高等学校は2点を先制したものの、

8回表に1点、9回表に1点を許し同点とされるも、9回裏に1死1塁・2塁のチャンスが巡り、1番・親富祖 凧人選手(3年)のサヨナラ打で3対2となり初戦を突破した。

2戦目は14日、兵庫県代表の社高等学校と対戦。3回裏、1年生で4番の片井海斗選手が左中間スタンドへ今大会1号となるホームランを打ち球場を盛り上げ、辻大雅投手(3年)も7回2失点と好投し試合は中盤までリードする展開で進んだ。後半、社高等学校の追い上げて



夏の甲子園出場を決めた東東京大会

緊張が走るが、重川創思投手(2年)が後続を断ち7対5で勝利を収め、初のベスト8進出に向けた3回戦への切符を手にした。

3戦目は16日、大阪府代表の大阪桐蔭高等学校と対戦。4回までに4

点を失うも、4回途中から布施東海投手(3年)がマウンドに立ち、そこから1点も与えることなく粘ったが、相手のミスのない守りを最後まで崩せず4対0で試合は終了。附属高等学校野球部の夏の甲子園は幕を閉じた。

3年ぶりに一般観客を迎えた甲子園には、チアリーダー部や吹奏楽部、応援団をはじめ、多くの在校生・保護者・教職員が応援に駆け付けアルプススタンドを盛り上げた。引退する3年生の思いを胸に、今後も新たなチームとなる附属高等学校野球部の活躍に期待したい。



左から辻大雅さんと布施東海さん(ともに3年生)

野球部OBがTシャツ、マスクなど贈る

附属高校卒業後プロで活躍する鈴木誠也選手(シカゴ・カブス)からは写真右のTシャツ、大江竜聖選手(読売ジャイアンツ)からは写真左のTシャツ、秋広優人選手(読売ジャイアンツ)からはバスケ、秋山正雲選手(千葉ロッテマリーンズ)からは特注マスクが贈られ、後輩たちを勇気づけた。

二松学舎 「創立145周年記念募金」

学校法人二松学舎では、現在、二松学舎「創立145周年記念募金」を行っています。

今回は、2022年4月1日以降、8月31日までに入金の手続きが完了した方のご芳名を掲載いたします。9月1日以降に事務処理が完了した方および附属高校野球部第104回全国高等学校野球選手権大会出場支援のご芳名につきましては次号（89号）以降に掲載いたしますのでご了承ください。ご芳名は、申込書や振込用紙、インターネットなどの申し込みフォームに記入されたご依頼人氏名の表記（敬称略）とさせていただきます。またその他の寄付への寄付者のご芳名も併せて掲載いたします。（掲載を辞退された方々のご芳名と口数は除かせていただいております。）

寄付者芳名

募金状況は、2022年8月31日現在総額7億6836万8051円（二松学舎教育研究振興資金）となりました。ご協力に心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

こちらには寄付者芳名を掲載しています。
詳しくは本紙をご確認ください。

「二松学舎賛助員」称号授与

学校法人二松学舎では、二松学舎教育研究振興資金（以下、振興資金）の高額寄付者を表彰しています。今回は以下3名に「二松学舎賛助員」（振興資金への寄付金累計額が100万円以上500万円未満）の称号を授与しました。

表彰者（敬称略）

◆2020年度

名誉教授 吉崎 一衛
名誉舎友 本城 学

◆2021年度

理事/事務局長 小町 邦明

二松学舎「創立145周年記念募金」のお願い

学校法人二松学舎では、「二松学舎教育研究振興資金」の寄付金募集を行っておりますが、本年は、『創立145周年記念募金』として募集しております。この募金は、寄付金の使途を指定することができ、さらに、税制上の優遇措置が受けられます。（確定申告のお手続きが必要です。）

お申し込み方法の詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。ホームページからクレジットカード・ネットバンキング等で直接申し込みが可能です。右下のQRコードからもアクセスできます。

または、下記にご連絡いただければ、専用振込用紙をお送りいたします。

何とぞ、募金活動の趣旨をご理解いただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



お問い合わせ 企画・財務課 ☎ 03(3261)1298



▲ 附属柏中・高の文化祭「松陵祭」はこんなに盛大!

▼ 1971 (昭和46) 年頃の文化祭の様子



▲ 令和で流行りのポーズはこれ!

▼ ずっと変わらない附属高校の制服 <1965 (昭和40) 年頃>



1997 (平成9) 年までの附属高校校舎



▼ 地下2階、地上6階の吹き抜け構造が特徴的な附属高校の校舎



写真で見る 二松学舎の 今・昔

二松学舎の歴史を写真で振り返るこの企画。
5年後の150周年に向けて
一緒に歴史を刻んでいきましょう。

1903 (明治36) 年頃の二松学舎



▲ 2002 (平成14) 年まであった大学旧校舎



▲ 九段1・2号館は2004 (平成16) 年に完成!



▲ コロナ禍でオンライン授業も当たり前...

▼ 1980 (昭和55) 年頃のゼミ風景



▲ 甲子園3季連続出場の附属高校野球部メンバーが合宿所前で昔と同じポーズで撮影!

▼ 1931 (昭和6) 年頃の野球部合宿所での集合写真



1972 (昭和47) 年頃の附属柏高校の様子



▲ 広くて自然豊かな附属柏中・高の校舎は改築を重ねとてもきれいに!

沿革

- 1877 (明治10) 年 三島中洲、漢学塾二松学舎を創立
- 1919 (大正8) 年 渋沢栄一、舎長に就任
- 1928 (昭和3) 年 二松学舎専門学校設置
- 1932 (昭和7) 年 金子堅太郎、舎長に就任
- 1945 (昭和20) 年 東京大空襲により校舎全焼
- 1948 (昭和23) 年 二松学舎高等学校 (現附属高等学校) 開校
- 1949 (昭和24) 年 二松学舎専門学校、新制大学に移行
- 二松学舎大学文学部国文学科・中国文学科設置
- 1963 (昭和38) 年 吉田茂 (元内閣総理大臣)、舎長に就任
- 1966 (昭和41) 年 二松学舎大学院文学研究科中国学専攻博士・修士課程、国文学専攻修士課程開設
- 1969 (昭和44) 年 二松学舎大学附属沼南高等学校 (現附属柏高等学校) 開校
- 那智佐伝、舎長に就任
- 1977 (昭和52) 年 二松学舎創立100周年
- 1982 (昭和57) 年 二松学舎大学沼南校舎 (現柏キャンパス) 開設
- 1986 (昭和61) 年 二松学舎大学院文学研究科国文学専攻博士課程開設
- 浦野匡彦、舎長に就任
- 1991 (平成3) 年 二松学舎大学国際政治経済学部国際政治経済学科設置
- 1995 (平成7) 年 二松学舎大学大学院文学研究科昼夜開講制実施
- 1997 (平成9) 年 大学基準協会に加盟
- 2001 (平成13) 年 二松学舎大学大学院国際政治経済学研究科国際政治経済学専攻修士課程開設
- 2004 (平成16) 年 九段キャンパス新校舎竣工 (九段1・2号館)
東アジア学術総合研究所を開設 (東洋学研究所・陽明学研究所等を統合・改組)
文部科学省21世紀COMプログラムに「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」が採択される
- 2009 (平成21) 年 九段3号館竣工
- 2011 (平成23) 年 水戸英則、理事長に就任
- 二松学舎大学附属柏中学校開校
- 2012 (平成24) 年 二松学舎創立135周年
長期ビジョン「N2020 Plan」の公表
- 2014 (平成26) 年 九段4号館竣工
- 二松学舎創立140周年
- 2017 (平成29) 年 新長期ビジョン「N2030 Plan」の公表
- 二松学舎大学文学部都市文化デザイン学科設置
- 九段5号館校地・校舎取得
- 2018 (平成30) 年 二松学舎大学国際政治経済学部国際経営学科設置
- 2019 (平成31) 年 江藤茂博、学長に就任
- 2022 (令和4) 年 二松学舎大学文学部歴史文化学科設置
- 二松学舎大学院国際日本学研究科国際日本学専攻修士課程開設

創立145周年記念事業のご紹介

事業一覧

「二松学舎創立145周年記念募金」の募集	大学および附属校の教育環境整備の充実を図る。
「明治10年からの大学ノート」改題および刊行	在学生・在校生および教職員等関係者に配布。2023年2月刊行予定。
創立記念碑および創立由来等説明板の設置	九段1号館に「三島中洲邸・漢学塾二松学舎・二松学舎専門学校跡碑」および「創立由来等説明板」を設置。4月27日に除幕式を挙行。
創立者生誕地碑改修および説明板の設置	岡山県倉敷市にある創立者三島中洲の生誕地碑の改修と中洲先生および石碑の説明板を設置。10月完成予定。
145周年記念動画の制作	145年の歴史を振り返り、学校法人および大学・附属校の現状とこれからの展望を動画にまとめ、特設サイト等で9月より公開。
145周年特設サイトの制作	周年を祝うメッセージや周年事業の紹介、記念募金、記念動画の公開などを実施。
ロゴマークの制作・利用	学校法人・大学・附属校の制作物や動画、広報物等で活用し周年について広める。
九段1号館校舎ラッピング	九段1号館のエントランスに創立145周年を祝う柱巻きを実施。
駅看板デザインの変更	本学にゆかりのある人物をイラスト化したデザインに刷新。
『論語と算盤』洪沢栄一と二松学舎』の刊行	『論語と算盤』（洪沢栄一著）を軸に洪沢と三島中洲および二松学舎の関係を書籍化。2021年6月刊行。
国際政治経済学部・文学部・東アジア学術総合研究所合同シンポジウム	日本近代史における洪沢栄一の位置付けや彼の理念「論語と算盤」について各研究者による講演・ディスカッションが2021年11月に行われ、2022年3月に書籍化された。
『論語』の学校—RONGO ACADEMIA—	『論語』を実社会で活用し活躍する方をゲストに迎える講演会。本年は10月15日に、野球日本代表「侍ジャパン」トップチーム監督の栗山英樹氏を迎えて実施予定。
夏休み子ども研究会	柏市内の小学生とその保護者を対象に、本年はさかなクンを特別講師に招きオンデマンド配信（申込者限定）により開催。
ねこ松デジタルデータ新コンテンツの制作	ねこ松が「360度画像」で九段キャンパスの各校舎を案内。大学ホームページの「受験生サイト」で公開。
二松学舎グッズアイデア募集	学生・生徒・教職員等関係者を対象にグッズを募集。最優秀作品はグッズ化し二松学舎サービス（株）で販売予定。
大学資料展示室企画展および講演会	大学資料展示室では全3回企画展を開催。10月17日～11月26日にはオンデマンドで講演と展示解説動画を配信。
学校法人全体における奨学金制度の見直し・拡充	法人全体の奨学金制度の質・ボリュームの見直しを行い、来年度以降の新制度導入等を目指す。
『論語と算盤』を活用した一斉授業の実施（附属高校）	『論語と算盤』から内容を選定し、校内放送設備を使用して一斉授業を10月に実施予定。
クリアファイルコンテスト実施（附属高校）	生徒からデザインを募集。2作品が選ばれ制作された。
スクールバスラッピング（附属柏中学・高校）	柏キャンパスおよび附属柏中・高で使用するスクールバスの145周年バージョンが運行中。
この他の取り組みについても、今後、HPや特設サイト、広報紙等で紹介予定。	

PICK UP 1

特設サイト開設/記念動画

「刻む145年の時。進む次なる未来へ。」をキャッチコピーに、2022年7月から特設サイトを開設。あわせて、二松学舎の歴史や三島中洲先生の紹介、理事長・学長・両附属校長のインタビューやこれからの展望をまとめた記念動画を公開。



PICK UP 2

夏休み子ども研究会



特別講師さかなクンの講演・質問コーナーの他、生徒による吹奏楽部の演奏や英語スピーチ、「沼の教室」をオンデマンド配信した。

PICK UP 3

記念企画展・動画配信



大学資料展示室では、新収コレクショ展示、三島中洲と近代—其八展（講演と展示解説動画配信）、水木かおる展を開催。

PICK UP 4

九段1号館校舎ラッピング



二松学舎公式キャラクターねこ松®などが描かれたイエローベースの華やかな柱巻きを九段1号館で2022年7月から実施。

PICK UP 5

スクールバスラッピング



三島中洲先生をはじめ、本学にゆかりのある人物のイラストが描かれたスクールバスが2022年7月から運行中。

「教学DX推進室」を設置

教学事務のDX（デジタルトランスフォーメーション）化を推進するため、大学改革推進部内に、西園大学改革推進部長を室長とする「教学DX推進室」を設置。2022年7月1日には、大学九段1号館で辞令交付式が行われ、各部署から選任された6名の職員に辞令が交付された。



今後は、「学修者本位の教育」の実現に向け、①学修成果の可視化、②学修機会の制約の緩和、③学内業務の効率化などを中心に教学DXを推進していく。

名誉教授称号授与

2022年4月1日付で、渡辺和則氏に二松学舎大学名誉教授の称号が授与された。

渡辺氏の専門はマクロ経済学。1997年4月、国際政治経済学部教授として着任。その後、2005年4月に副学長、2009年4月から6年間学長を務める等、本学の教学運営に尽力した。

教育面では国際政治経済学部および大学院国際政治経済学研究科で学生の指導に当たり教育研究に大きく貢献した。

永年勤続表彰

本年は永年勤続者として以下の12名を表彰。（敬称略・50音順）

30年勤続

大学教員	小淵 朝男	改田 明子
大学職員	小西 明徳	菅原 直子
	増田 光司	馬淵 裕之
附属高等学校職員		山崎 修

15年勤続

大学教員		高澤 浩一
大学職員	菊地 誠一	山口 貴子
附属高等学校教員		曾根 一倫
附属柏高等学校教員		古子 智美

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます。

石川 忠久氏(顧問・名誉教授)

2022年7月12日逝去。満90歳。（1990年～2005年在職）大学院文学研究科に着任後、同研究科中国学専攻主任、同研究科長を務め、理事長、学長を歴任した。2008年瑞宝中綬章受章。

松田 存氏(名誉教授)

2022年6月20日逝去。満87歳。（1980年～2005年在職）1958年に本学国文学科を卒業、1970年に本学大学院文学研究科国文学専攻を修了後、文学部に着任。学校法人「二松学舎評議員を務めた。

松本 寧至氏(名誉教授)

2022年6月30日逝去。満91歳。（1982年～2001年在職）文学部に着任後、東洋学研究所長、附属図書館長を務めた。2009年瑞宝中綬章受章。

松岡 一夫氏(客員教授)

2022年7月19日逝去。満87歳。（1993年～2005年在職）国際政治経済学部に着任後、就職部長、就職部顧問、キャリアセンタール長を務めた。

富岳 智猛氏(客員教授)

2022年9月3日逝去。満96歳。（1974年～1996年在職）公立中学校教諭を経て、文学部に着任。